

仙人通信 84 櫛形山 (2051m)

櫛形山は南アルプスの前衛の山として、又アヤメが咲く事から花の百名山として有名である。櫛形山の登山コースは沢山あるが、和櫛を象る北尾根を登り中尾根を下るポピラーなコースとした。伊奈ヶ湖の近くの駐車場から林道を 20 分程進み、林の中の登山道に取り付く。林道の両側には、コアジサイとヤマボウシが花を付け、猿までが道路で迎えてくれた。登山道はミズナラ等の落ち葉が昨日の雨で濡れよく滑る。コアジサイ・ヒトリシズカ・ギンランが林床に咲く。ギンリュウソウも白い頭を持ち上げて、にぎやかな登りである。65 分で更に上に作られた林道を横切り最初の展望台である。2 つ球の高気圧が上空を覆うが、南からの湿った空気で雲が湧き視界は利かない。巫女が翳す鈴のような形のマイズルソウが白い小さな花を付け、それを黄色いキジムシロが引き立てる。イカリソウも薄ピンクの錨状の花を付ける。直接アヤメ平に向かう南斜面のコースを採る。赤いヤマツツジ・ベニウツギ・白いフタリシズカ・チゴユリ・フスマ・ユキザサの群生・元気の良いクサタチバナそして紫のラショウモンカズラである。岩には玄武岩質の凝灰岩・凝灰角礫岩等の標示がされている。櫛形山は糸魚川―静岡構造線と市野瀬断層で区切られた凝灰岩の山である。そして山の西側には櫛形山断層が南の源氏山向うが、展望が利かず確認できず残念である。2 時間近い尾根の南側の登山道を抜けるとズミの咲くアヤメ平である。アヤメは芽が出始めたばかりである。紫のサクラスマレであろうか、キジムシロに映える。唐松の林床はマイズルソウの絨毯でその中にスマレが目立つ。サルオカゼが揺れ・花芽の付く前のコバイケイソウの群落、そしてホトトギスが時折鳴く以外静寂の世界だ。何とも深山に分け入りて・・の心境である。オウレンに似た白い茨が登山道の両側に、そして中央にはオオカメの木の白い 5 弁の花が散り埋める。スダヤクシュ・カニコウモリ・キンポウゲらが林床を覆う。50 分程で裸山山頂である。南東方向に櫛形山までの尾根が、その上に富士山までが顔を出した。今日始めての遠望で富士山が望めたのはラッキーだ。殆どが唐松の林である尾根の西側を櫛形山に向かう。祠頭との分岐を過ぎ最後の詰めでは、ミヤマカタバミそして咲き始めたばかりの白い清楚なエンレイソウに見ほれる。歩き始めて、5 時間で山頂に辿り付く。東側の唐松の間から、山頂に雪が残る富士山のみがバッチリだ (他は樹林の中)。祠頭の分岐までの 50 分は、緩やかな唐松林の下りである。マイズルソウ・ミヤマカタバミ・そして 15cm 程の背の低いマムシソウ (テナンショ) が可愛い。祠頭の分岐には、ほこら小屋や水場も整備されていた。赤味を帯びたズミが一面に咲く様は見事である。直ぐに唐松林に入るがガスが濃くなり視界は 10 m 前後だ。踏み後を確認しながらの下山である。霧の幻想的な中に白いヤマシャクヤクが 1 輪咲いているではないか。緊張していた気持ちが切れ、嬉しさが込み上げた。足元にはツマトリソウも今日の初対面だ。朝会った猿達であろうか、頬笛を吹くのが聞える、お出迎えサンキューだ。ゆっくり歩いた積りは無かったが 7 時間 20 分の花に埋もれた山旅でした。(H21.6.9)

櫛形山山頂



山頂から富士山



祠頭のズミ

